『スタジオ・アテンド料』実施に関するお願い

(2025 年改訂版)

平素より、私ども日本作編曲家協会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会では 1995 年より、録音現場におけるアレンジャーの長時間立ち会いが、編曲料や指揮料だけでは十分に補償されない実情を踏まえ、別途費目として「スタジオ・アテンド料(立会い料)」を設定し制作関係各位にご請求申し上げることについて、ご理解とご協力をお願いしてまいりました。具体的には、以下の内容です。

録音開始の最初のセッションは、通常ベーシックなリズムセクションの録音をおこなうことに使われていますが、この部分についての報酬はこれまでの「指揮料」として受けさせて頂き、この最初のセッションを超えた部分(ふつう、弦・管・シンセ・コーラス等のダビングやトラックダウンの時間帯となります)について、「スタジオ・アテンド料」を申し受けさせて頂きます。

1995 年以降、30 年の間に制作環境は大きく変化し、DAW を中心としたソフト音源やシンセサイザーによるサウンド構築、録音後のボーカル編集、追加ダビング、リモートセッションやオンラインレビューなど、アレンジャーが音楽制作において果たす役割は多様化するとともに一層拡大しております。現代のアレンジャーは単なるスコア提供者ではなく、サウンドデザイン、演奏ディレクション、全体バランスの監修など、作品の完成度を左右するスーパーバイザーとしての責務を担っています。

従来型のスタジオ録音においても、初回のベーシックセッションだけでなく、弦・管・シンセ・コーラス等のダビングやボーカル録音、トラックダウンの確認等に長時間立ち会い、必要に応じて即時対応することが制作現場では不可欠になっております。しかしながら、こうした編曲以外の労力が十分に評価されず、実質的にアレンジャーが無償に近い形で作業を負担するケースが散見されます。つきましては、1995 年の導入当初からの趣旨を踏まえつつ、現代の制作環境に即した形での「スタジオ・アテンド料」として、制作関係各位にご請求申し上げることについて改めてご理解賜りたく存じます。

なお、「指揮料」と「スタジオ・アテンド料」の金額については、個々のアレンジャーによって個人差のあるところですが、時間あたりの「スタジオ・アテンド料」の金額は、「指揮料」より低額を基本としつつ柔軟に調整いたします。

私たちは、より良い音楽を届けるために常に創意工夫と研究を重ね、制作現場での最良の判断を提供することを使命としています。そのためにも、アレンジャーの時間と労力に対する適正な評価が不可欠です。制作現場における円滑な進行と、作品クオリティのさらなる向上のため、本制度の趣旨をご理解のうえ、今後とも「スタジオ・アテンド料」の実施にご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2025 年 9 月 26 日

日本作編曲家協会(JCAA)

会長 小六禮次郎 理事長 渡辺俊幸